



バリアフリー推進レポート



《トピック》

広島市立落合東小学校の5年生を対象にウォーキングフットボール体験等によるバリアフリー教室を開催しました。

サンフレッチェ広島の川村選手、A-pfeile(アフィーレ)広島の選手お二人にも参加いただきました！

サンフレッチェ広島 川村選手



A-pfeile 広島(<https://a-pfeile.jimdofree.com>)



中国運輸局では、共生社会実現のため、小学生等を対象としたバリアフリー教室を開催し、「心のバリアフリー」の啓発に取り組んでいます。

このたびは、広島市立落合東小学校の5年生を対象に、ウォーキングフットボールの体験を通じて、心のバリアフリーの啓発を行いました。

※「心のバリアフリー」とは、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションを取り、支え合うことです。

※ウォーキングフットボールは、「歩く・接触しない」といったルールを設定することでサッカー未経験者や運動が苦手な人、障害のある人も楽しくプレーすることのできる競技です。

広島市立落合東小学校 5年生対象 ウォーキングフットボール体験等によるバリアフリー教室

【開催概要】

日 時: 令和4年12月2日(金) 13:45 ~ 15:20

場 所: 広島市立落合東小学校

対 象: 広島市立落合東小学校 5年生74名

内 容: ウォーキングフットボール、心のバリアフリークイズ等を実施。

主 催: 国土交通省中国運輸局

協 力: 一般社団法人広島県インクルーシブフットボール連盟、A-pfeile 広島、株式会社サンフレッチェ広島、広島市

①ウォーミングアップ(氷鬼)

通常の氷鬼とは違い、「鬼の人数を変える」など、鬼側、逃げる側の両方が楽しめるように話し合いでルールを決めました。



②ウォーキングフットボール体験

ウォーキングフットボールは、みんなが楽しめるように「話し合い」でルールを変えることができます。相手のことを思いやり、どうすればみんなが楽しめるか考えました。



最初は通常のサッカーを川村選手や大人とプレーしましたが、やはり川村選手にはかないません。

しかし、ウォーキングフットボールでは、ルールを変えられます。運動の得手・不得手、障害の有る無しにかかわらず、みんなが競技に参加し楽しめるように、「歩く」「ボールを持った人から離れる」などのルールを話し合いで決めます。

みんなで決めたルールで試合を行います。その後、試合をしてみてどうだったか再度話し合いを行います。(右下)



話し合いの中で出たみんなが楽しむための工夫を次の試合のルールに反映させます。



③心のバリアフリークイズ

点字ブロック、バリアフリースイレ、ヘルプマークや耳マーク等に関するクイズを行い、障害に関する理解啓発および心のバリアフリーを実践するための行動について学習を行いました。



④振り返り

最後に、川村選手から感想をいただき、また、インクルーシブフットボール連盟様からウォーキングフットボールの振り返りをいただきました。中国運輸局バリアフリー推進課の職員からは、地域の中でも思いやりを大切にし、「心のバリアフリー」の実践をしていただくよう願いました。



【参加した児童からの感想】

(ウォーキングフットボールについて)

- ・いろいろと気をつけないことがあるので難しかった。でも終わった後、ウォーキングフットボールはどんな人でも楽しめる素敵なスポーツだとあらためて実感した。
- ・難しかったけれど、みんなで協力してやりとげることができたので良かった。
- ・みんなで円になって話し合うところで、決められたルールを無理してやるのではなく、みんなが安全にできるようにルールを変えることが大切なんだと思った。

(心のバリアフリークイズについて)

- ・クイズでは、どうすれば障害のある方でも普通の人と同じように生活できるのかということを教えてもらった。これからは、障害のある人が困っていたら声をかえてみようと思った。
- ・困っているからといって勝手にやるのではなく、困っていたらまず聞いてからお手伝いをしたら、相手に迷惑がかからないようになることがわかったし、これから気をつけようと思った。

(全体を通して)

- ・肢体不自由だったり何かしらの障害があったとしても、同じ人間だから差別してはいけないし、自分にもできることをしていこうと思った。
- ・ウォーキングフットボール学習を通して、障害があってもなくても、みんな同じ人間だから差別や偏見がない世界をつくりたいと思った。
- ・障害を持っている人とも、話したり遊んだりして心と心が通じ合えるようになりたい。